



どんな命も等価に扱う祖母の家

私の祖母が所有、居住する店舗併用集合住宅のリノベーション、コンバージョンを提案する。

「ゴキブリの命も人間と同じ。かつては庭があって、多くの人が遊びに来た、昔のような暮らしをしたい。」という話を伺い彼女の価値観から、既存のRCラーメン構造のフレームを活かし、単純な「建築」と「庭」の関係ではなく、庭が積層、共有され、どんな生物も訪れることができる建築を考えた。また、各々の場所が明るく、楽しく庭に開きながら、プライバシーを保てるようにしている。

店舗と住居空間は、ゆるやかにつながり、その店、独特の雰囲気を感じることができる。

生活空間が、立体的に散りばめられていて、いろいろな場所にいろいろな暮らしがある気持ちのよい集合住宅を目指した。

敷地について



1970



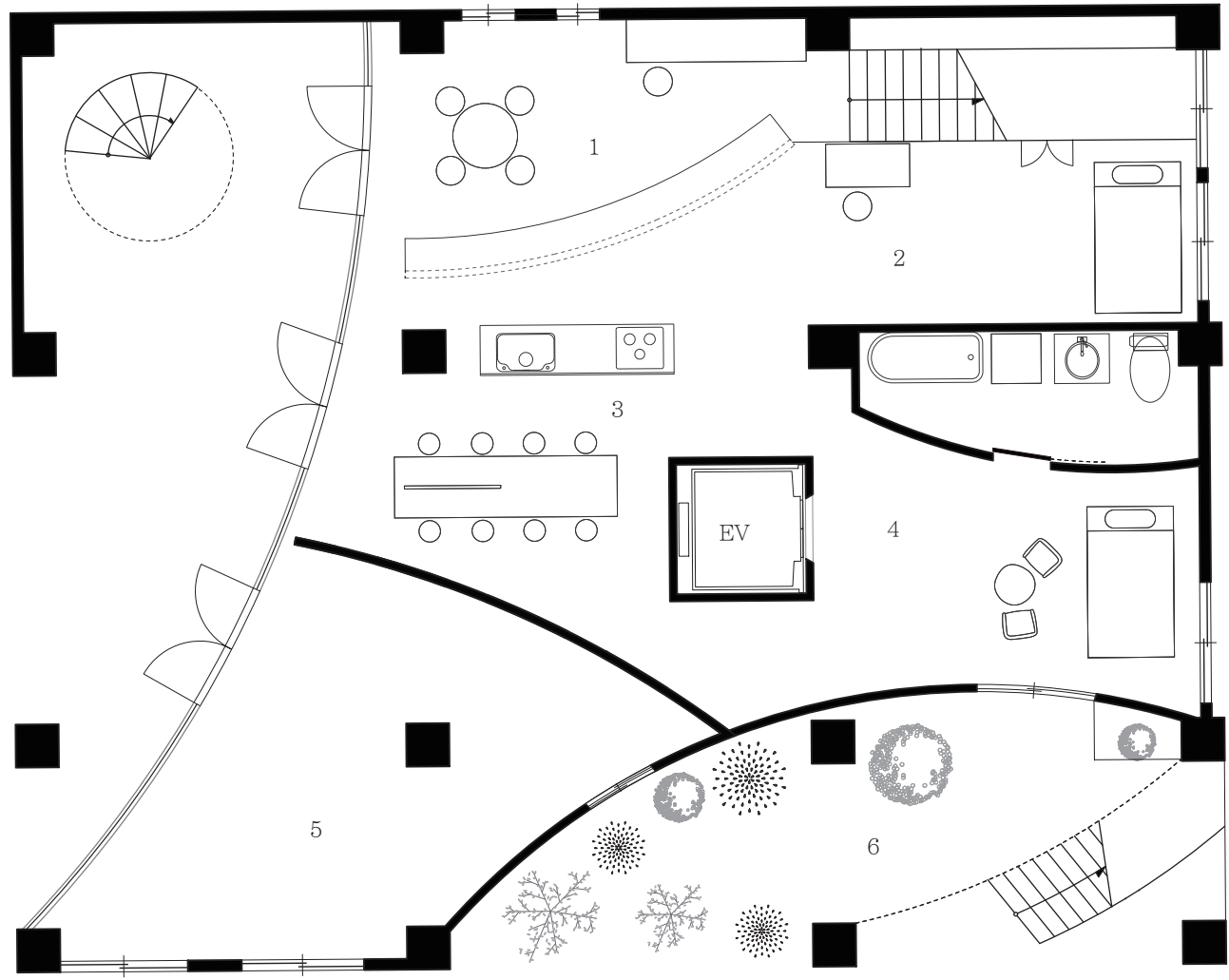
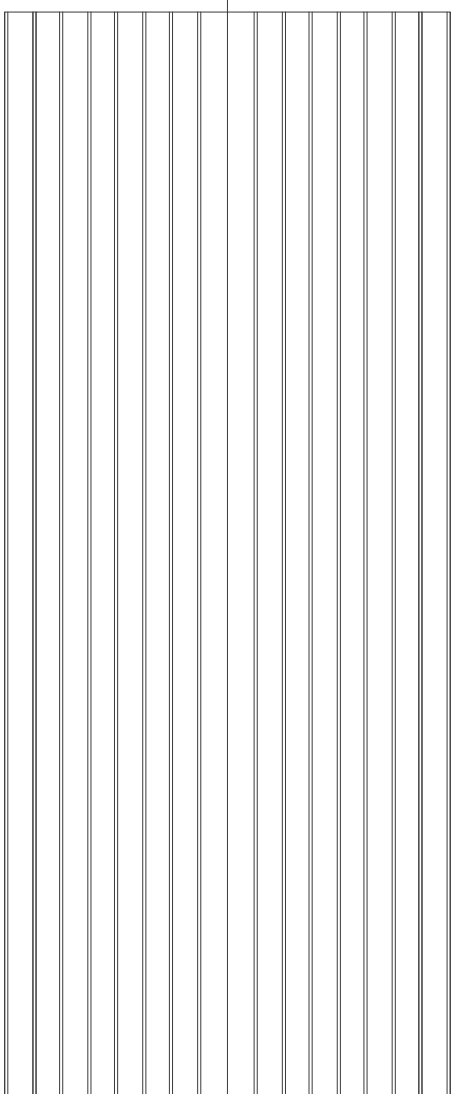
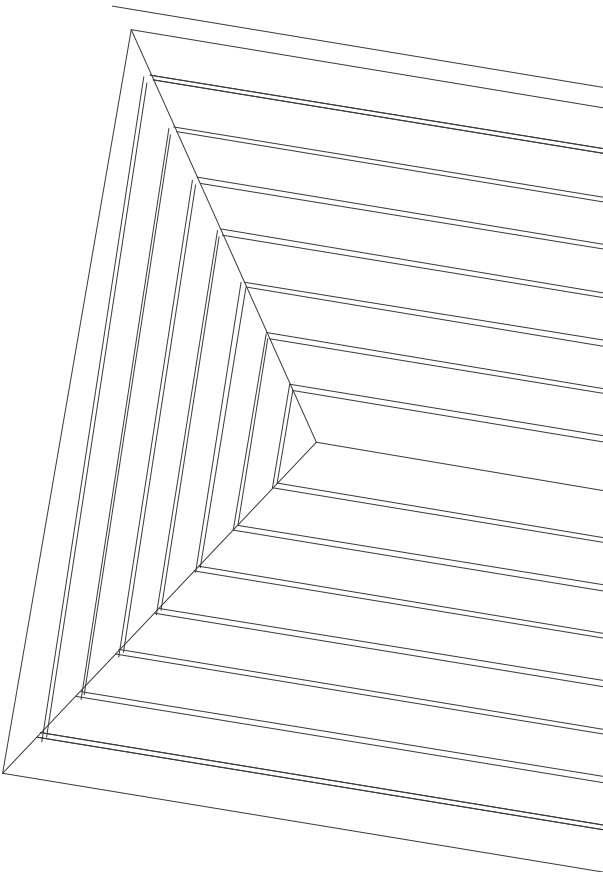
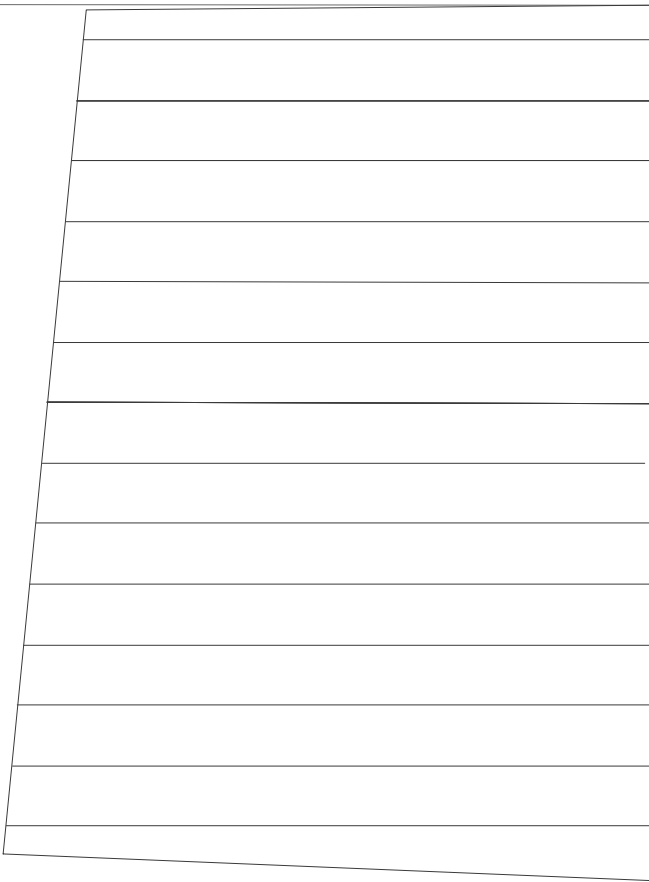
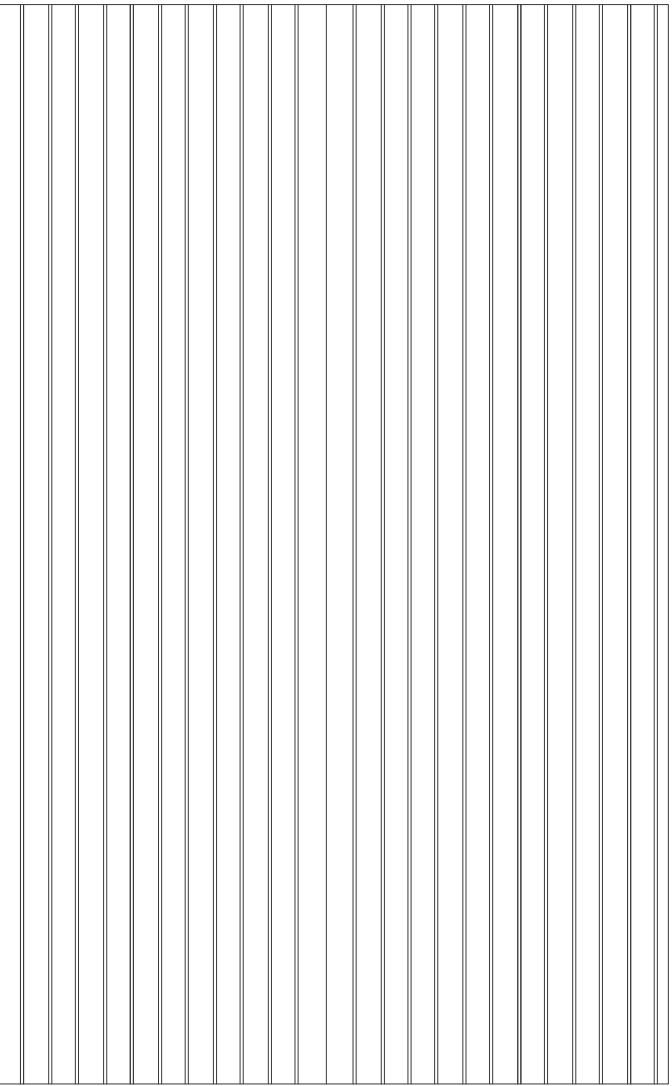
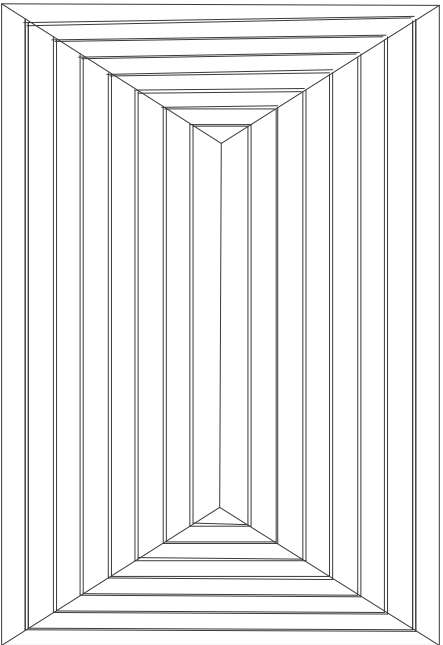
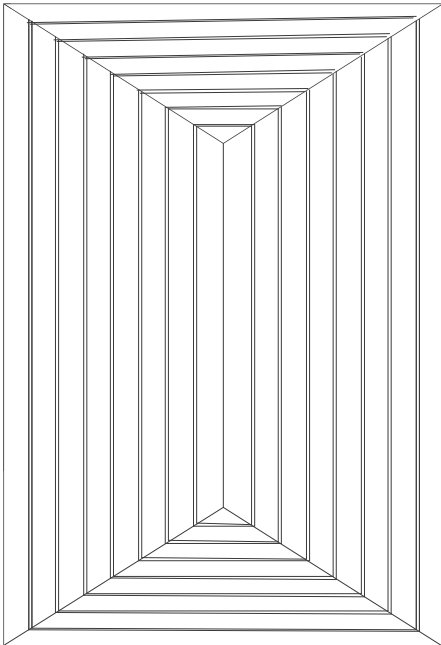
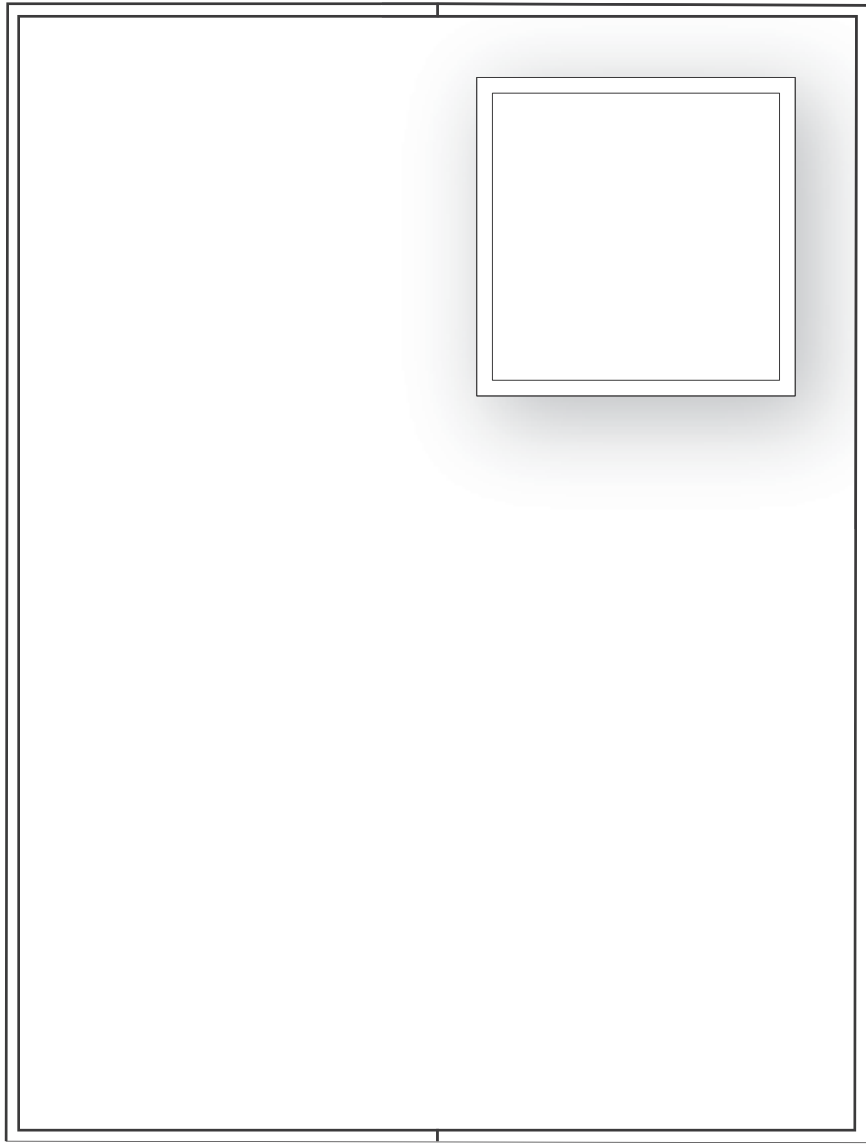
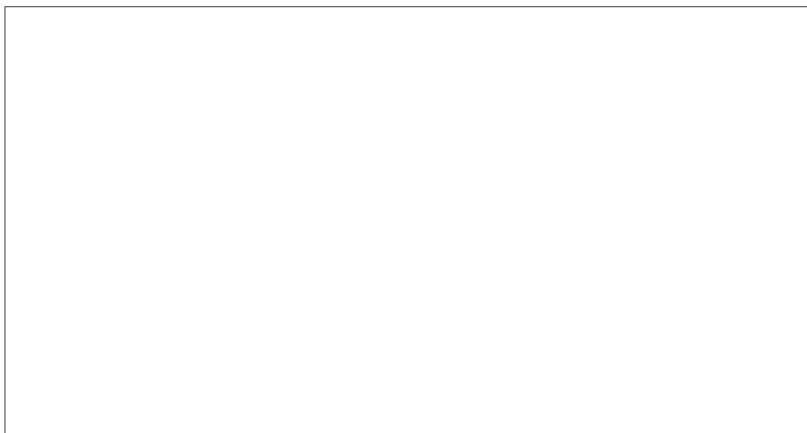
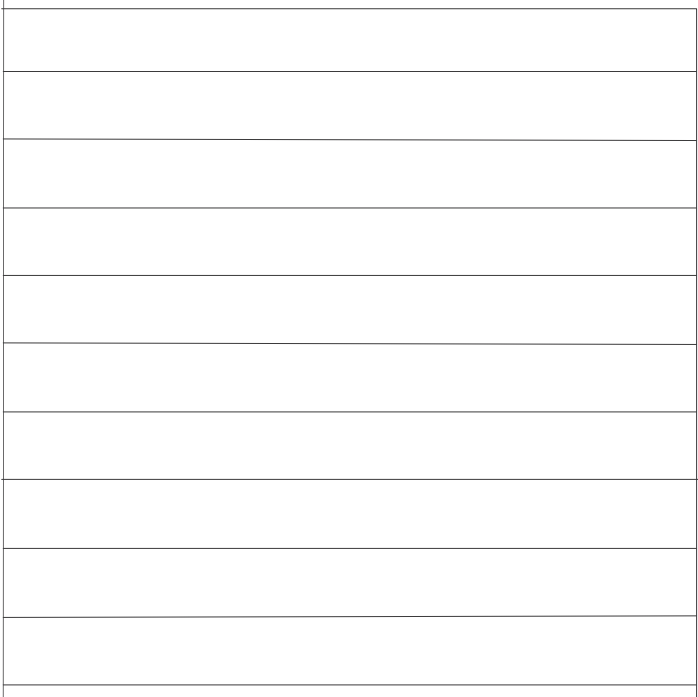
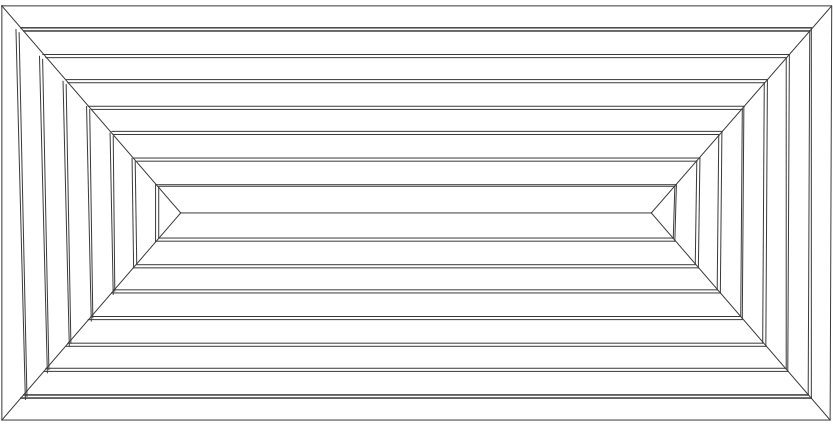
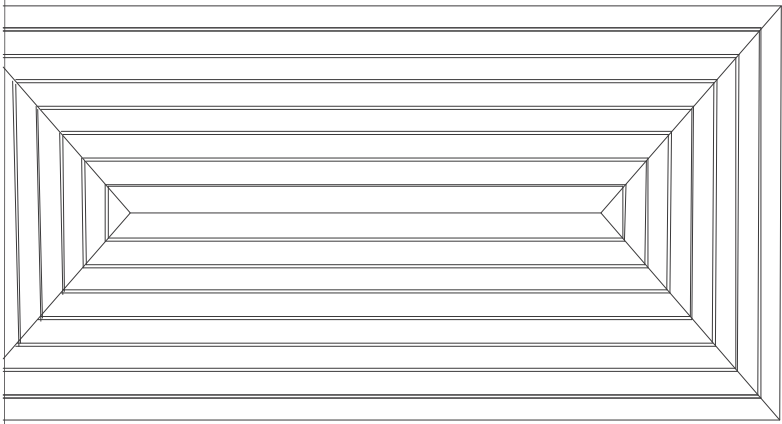
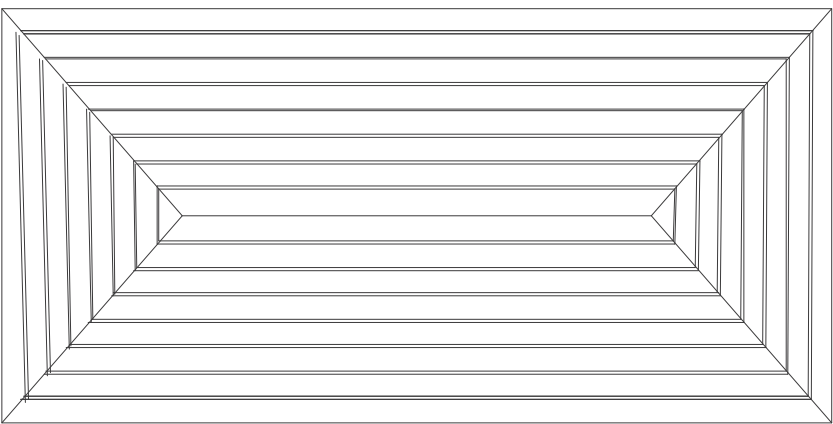
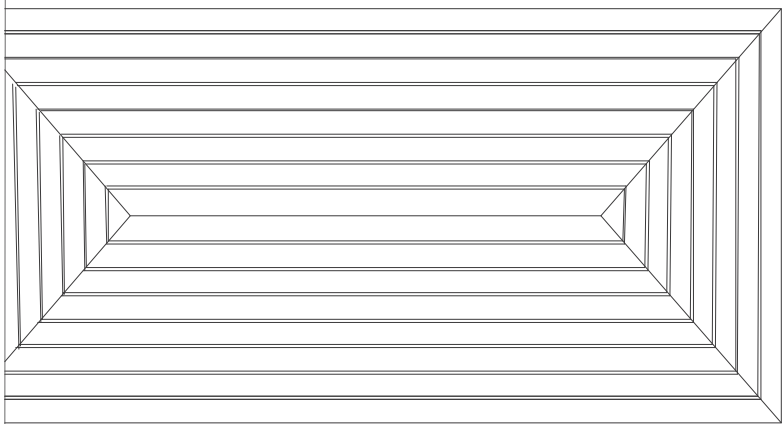
1990



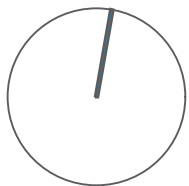
2010

1970年以前から住んでいる世帯 1990年以後から住んでいる世帯 2010年以後から住んでいる世帯

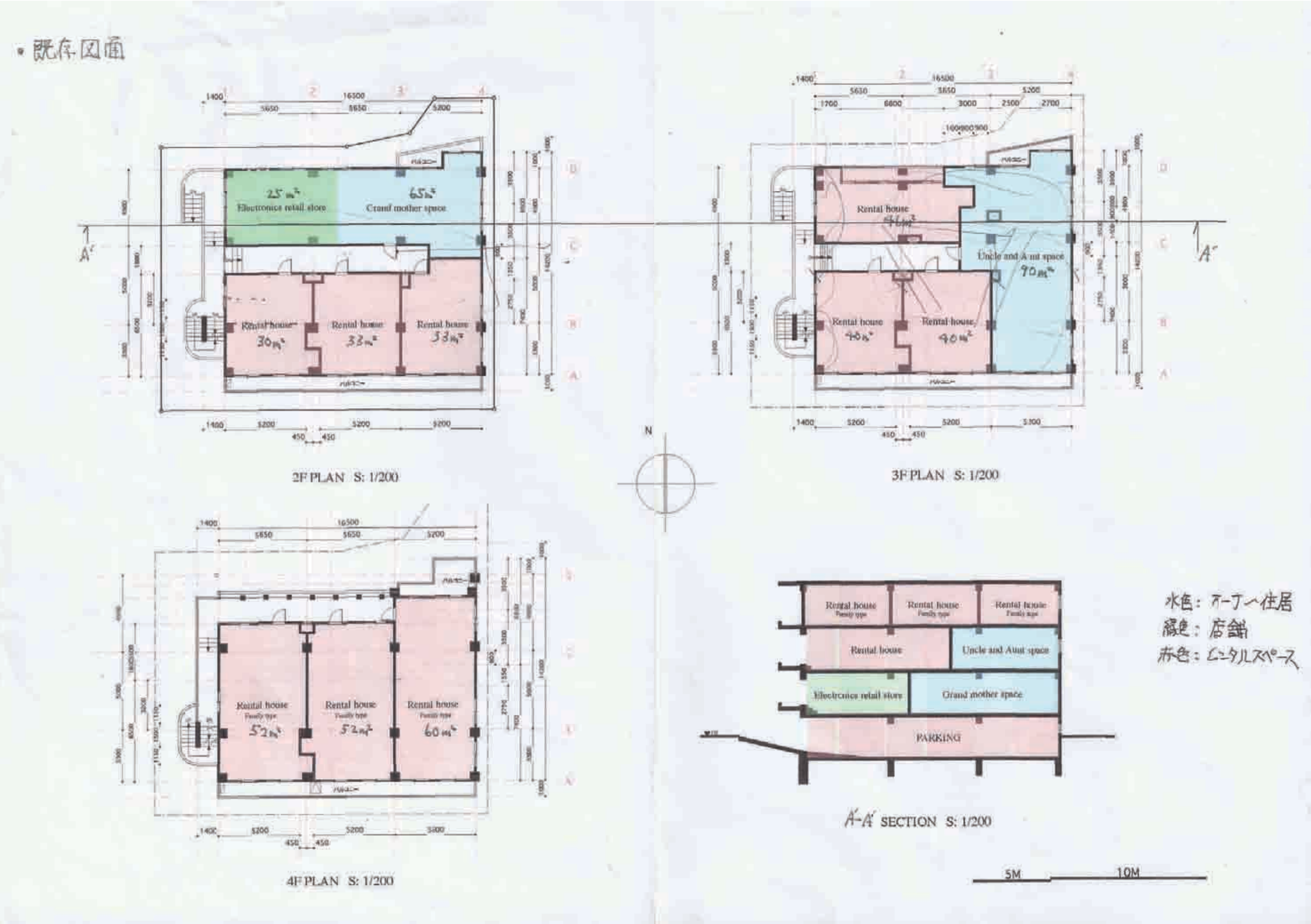
敷地は、東京都北区志茂1丁目の第一種住居地域の住宅街。祖母らが、長く居住している土地である。周囲には共に、長く居住している世帯はもちろん、80年代以降は移住してきた世帯も増えてきている。東京23区で最も高齢化率が高いということもあって、ここでは高齢者と若者が交流できることも考慮されて計画した。



- 1 家電量販店
- 2 宿泊室
- 3 招きの空間
- 4 祖母の主空間
- 5 ギャラリー
- 6 集いの庭



■ 既存図面



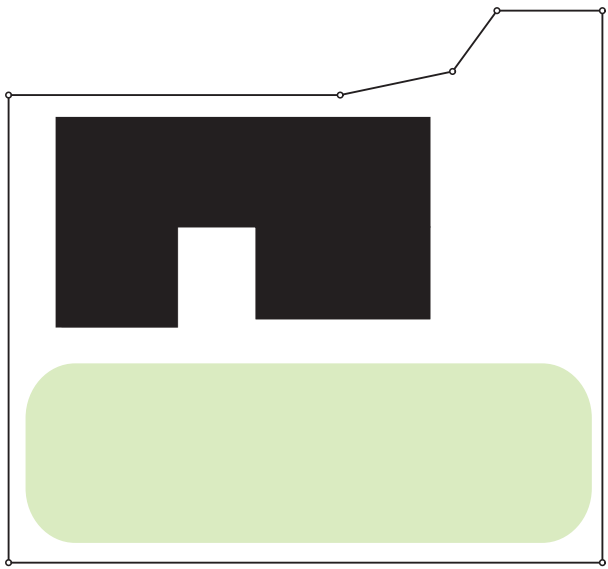
■ 祖母との会話

計画するにあたり祖母と、いまの生活についてお話をした。何に困っているか、昔の暮らし方や、近隣との関係といった、様々なことを伺った。

かつては、大きな庭があって、僕の母の友人などが遊びにきたり、近所付き合いも活発だった。

最も印象に残ったことが、自分以外のモノに対する振る舞いや、接し方で、それは人間はもちろん、彼女と共に暮らす、害虫も含まれる。

「ゴキブリの命も人間と同じ。かつては庭があって、多くの人が遊びに来た」
その言葉から、彼女の生き方や、振る舞いを建築の形や、空間に表現したいと考えました。彼女の存在を、建築に永遠化、芸術化し、より広い範囲に開かれた、住宅、あるいは森のような建築を目指した。



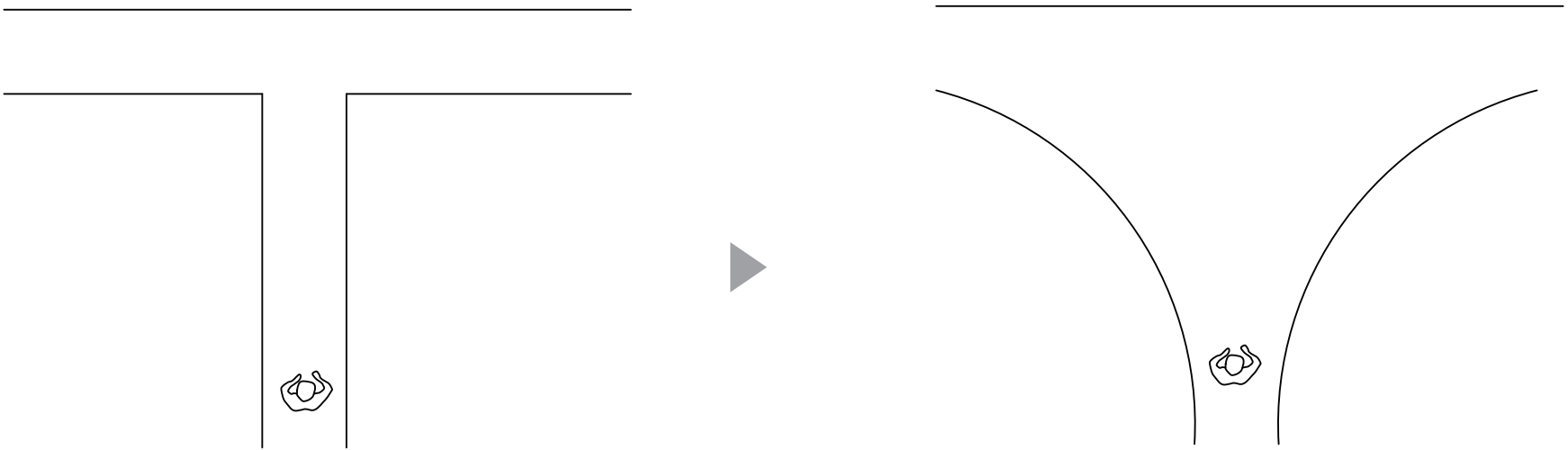
1970年代の彼女の住まいは、敷地の半分が庭でした。
魅力的なアジサイ畑があって、すぐそこは沼地だった。

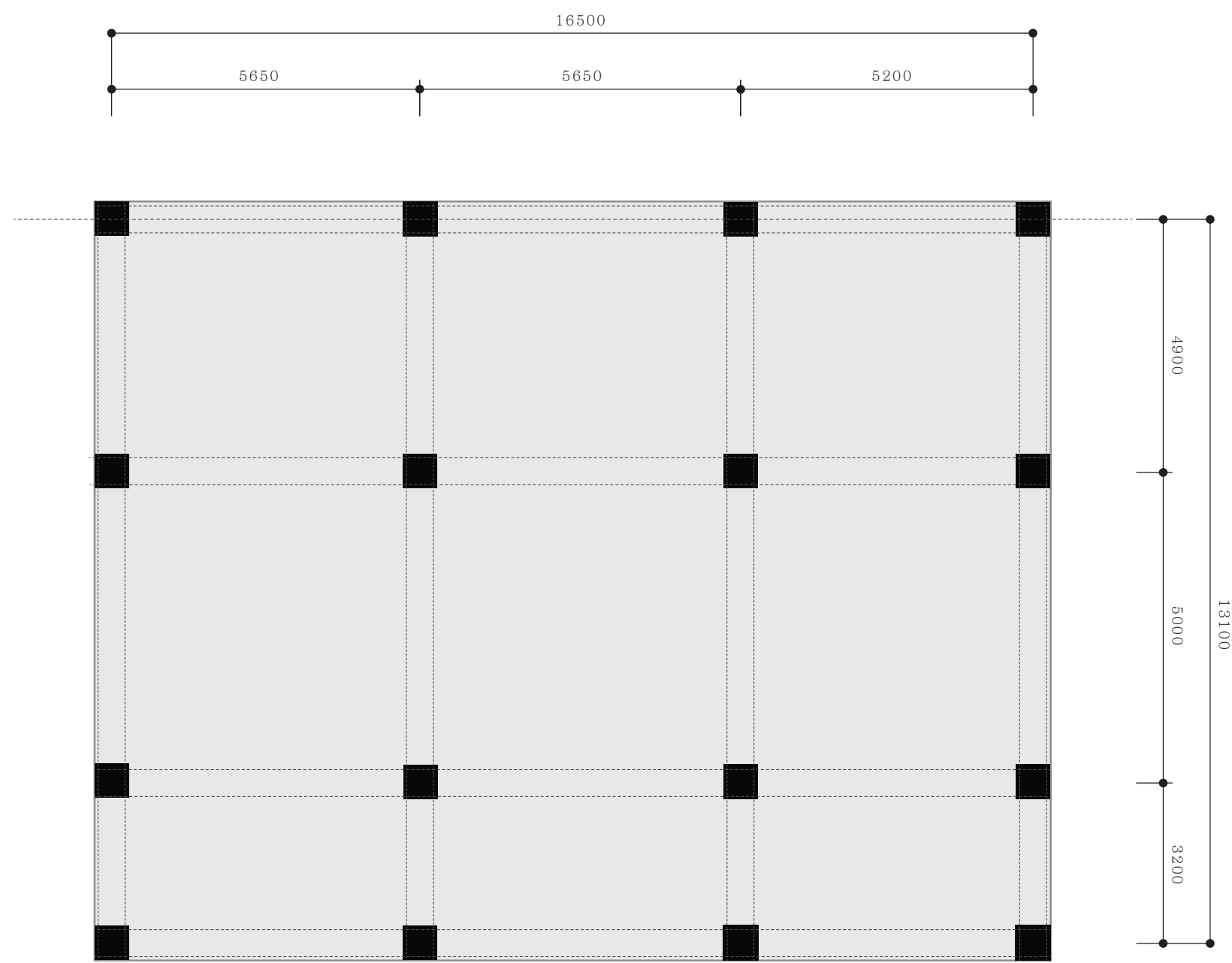
1970年代の建築配置状況

■ Design Diagram

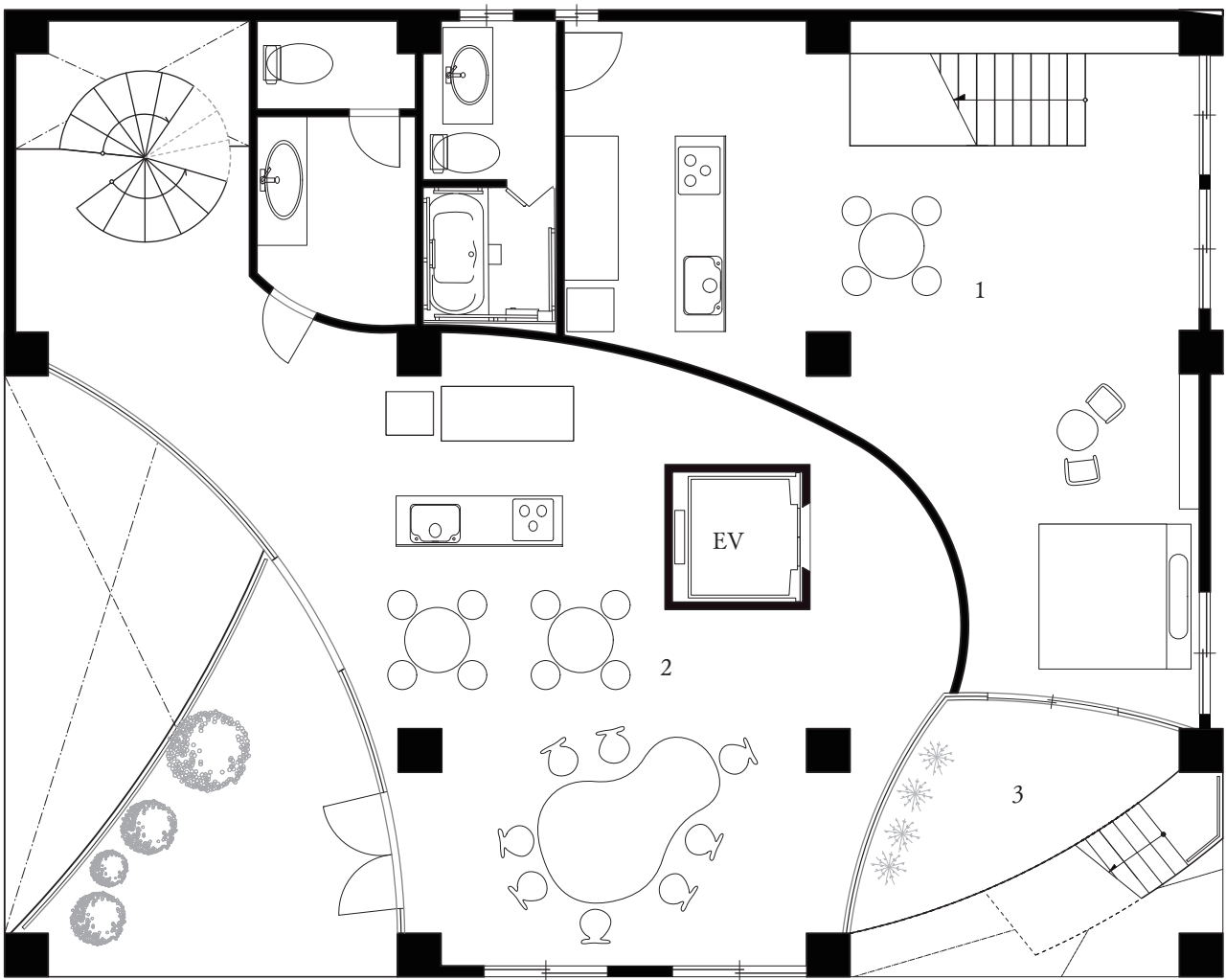


■ Plan Diagram

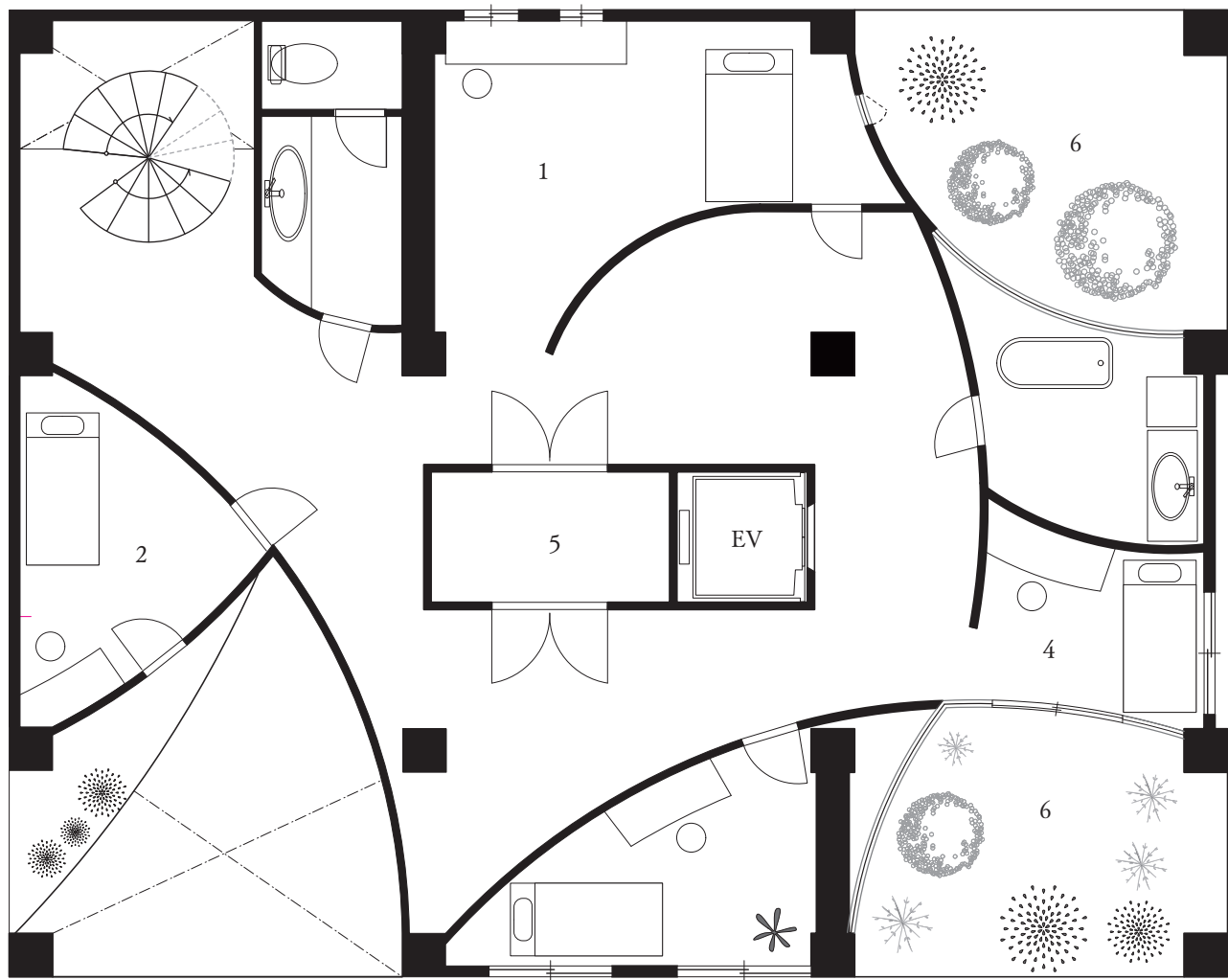




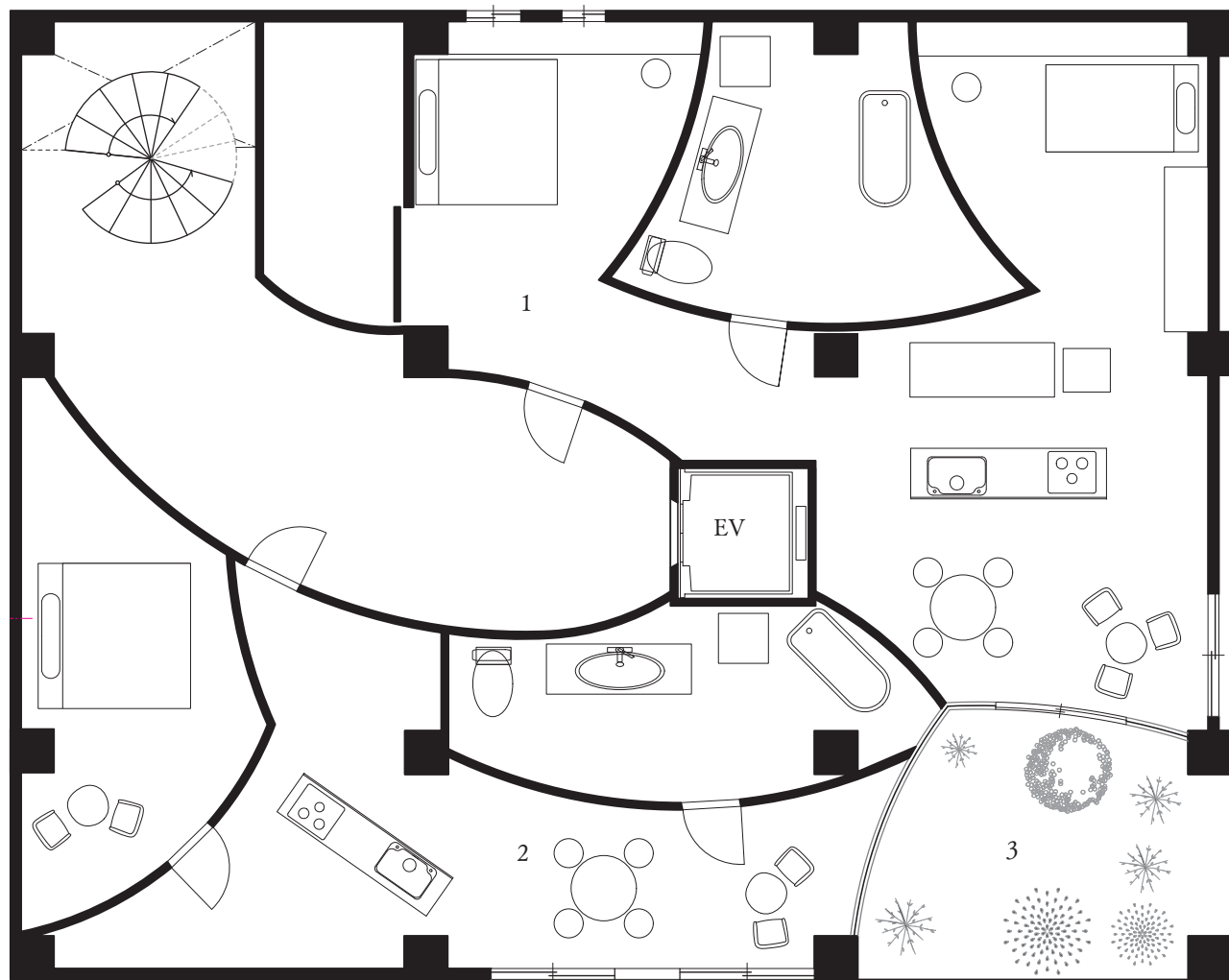
構造軸組図



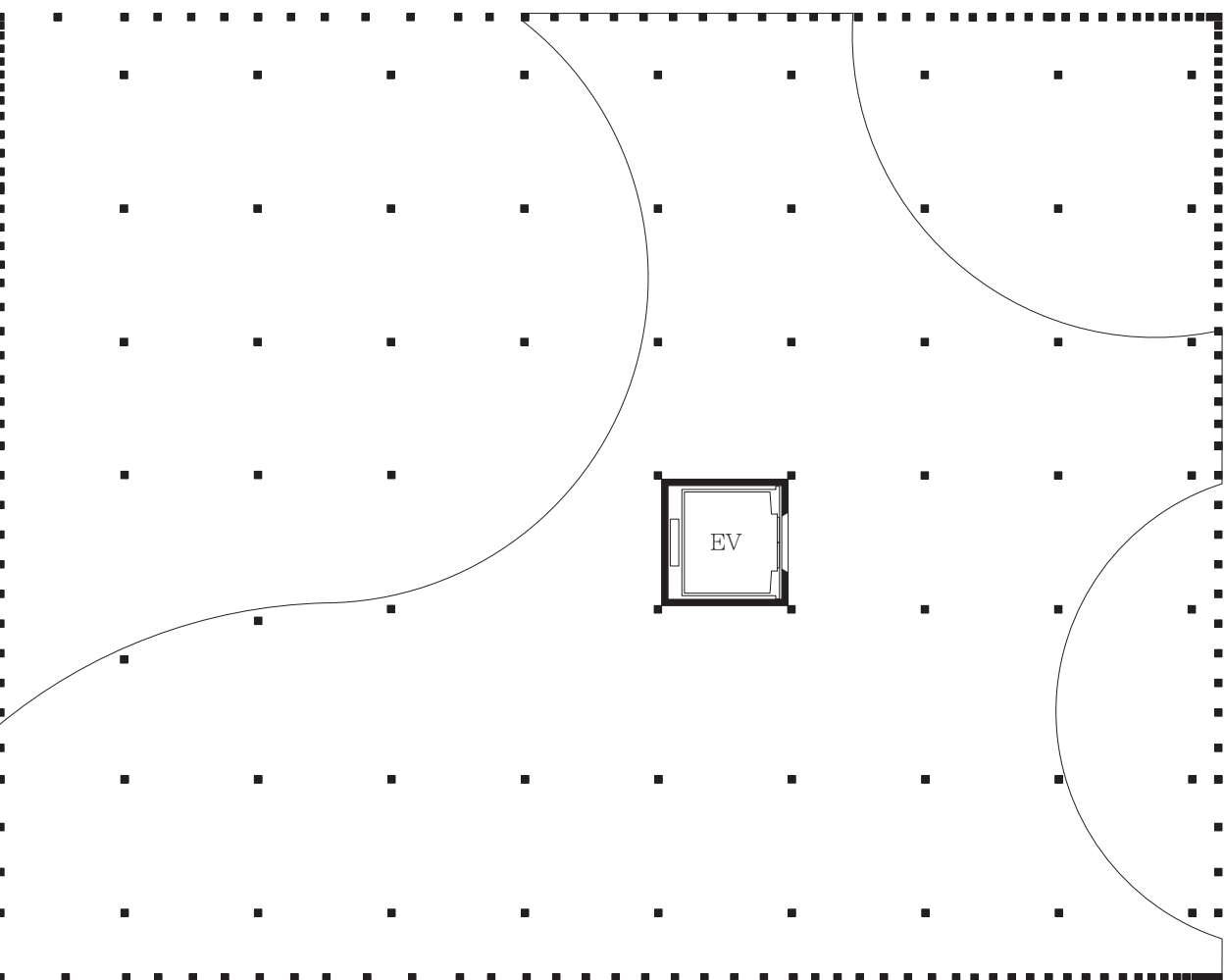
二階 平面図 | S:1/100



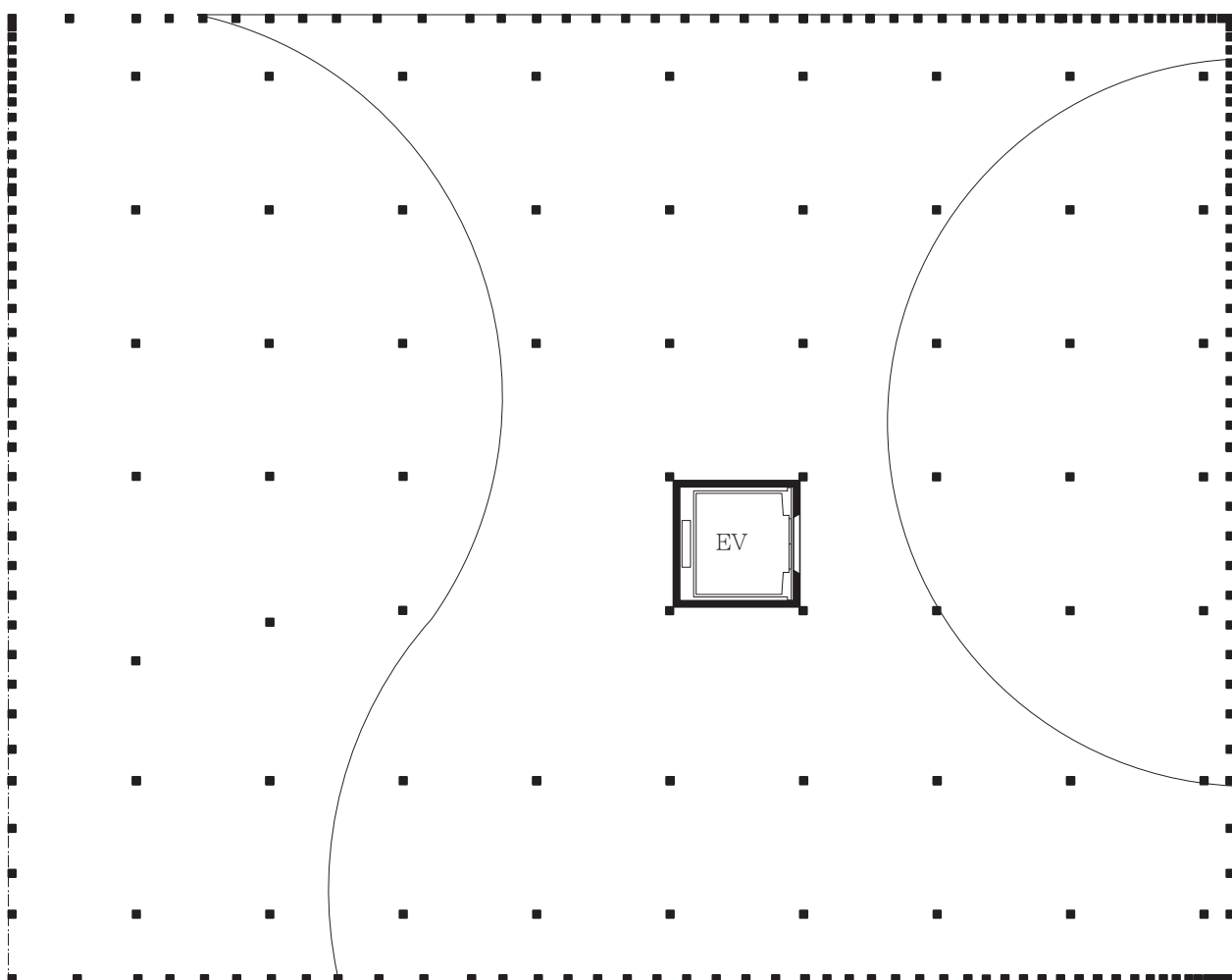
三階 平面図 | S:1/100



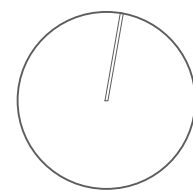
四階 平面図 | S:1/100

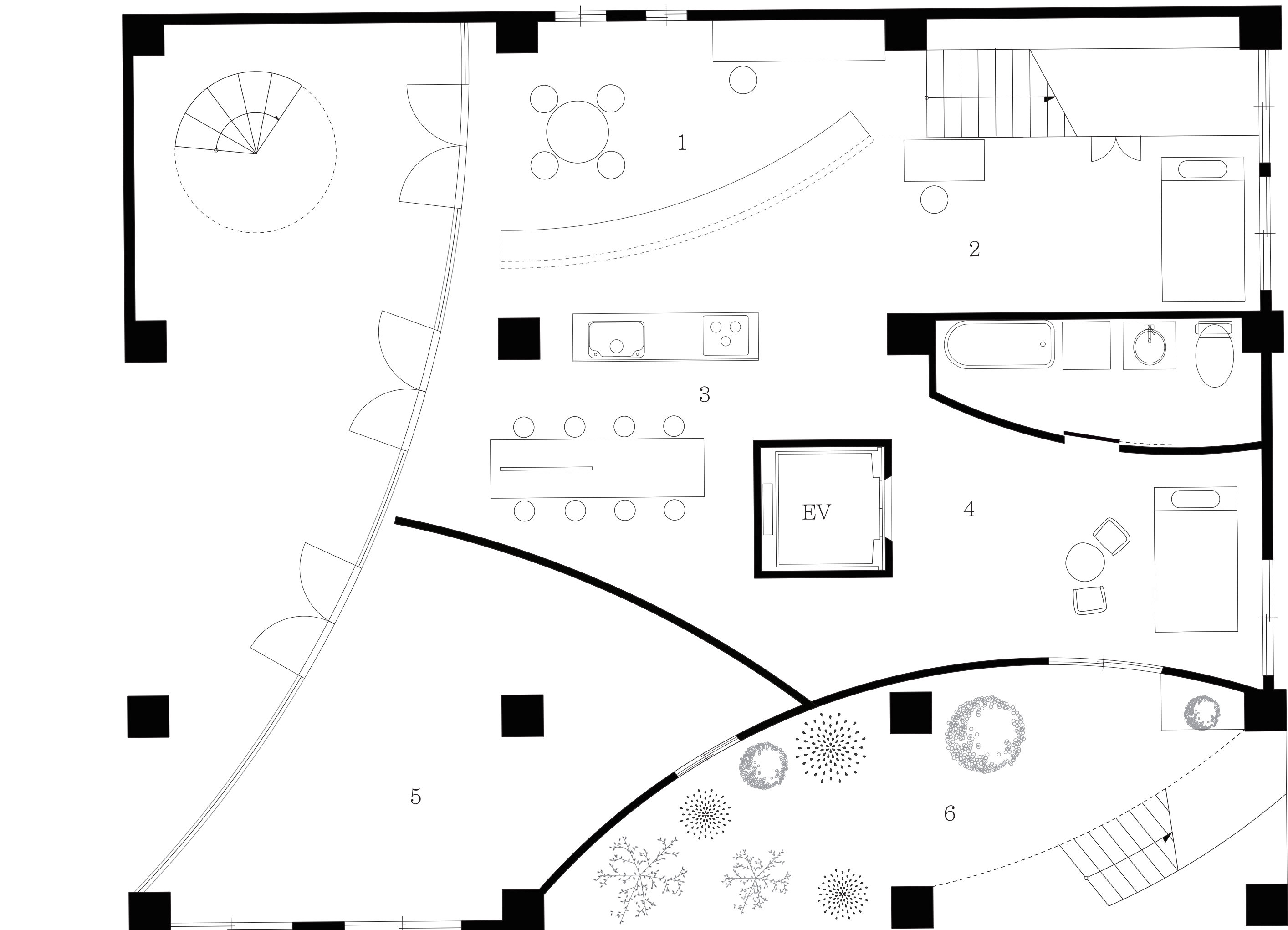


六階 平面図 | S:1/100



七階 平面図 | S:1/100





- 1 家電量販店
- 2 宿泊室
- 3 招きの空間
- 4 祖母の主空間
- 5 ギャラリー
- 6 集いの庭

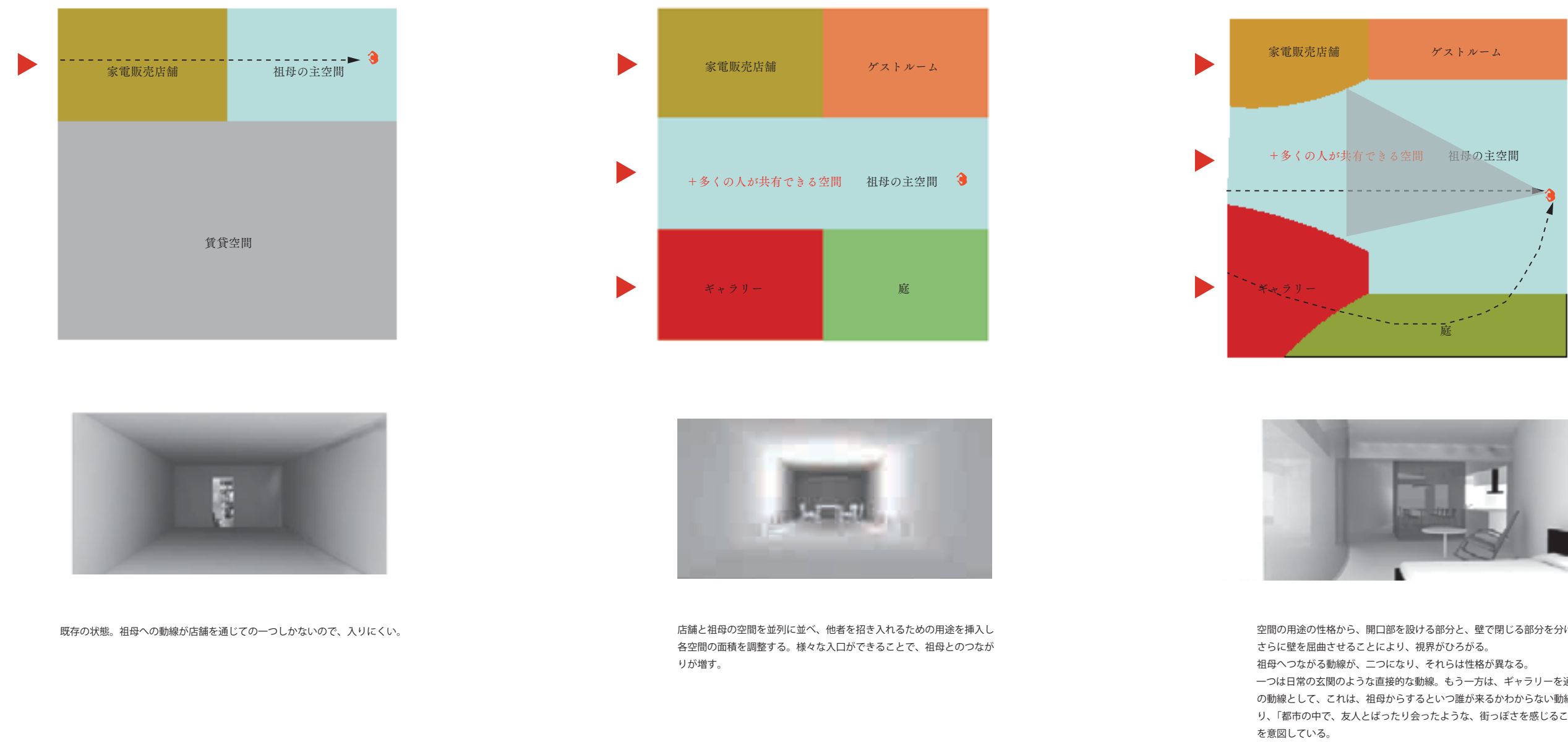
一階 平面図 | S: 1 / 50

住宅+ギャラリー+電気店

従来、店舗併用住宅は、これらを分離する計画が一般的だったが、住宅地の店舗ということで、生活感を感じることができるように、一体的に計画した。

「祖母の主空間」から、電気店やギャラリーが、ゆるやかにつながり、雰囲気を感じることができる。ギャラリーは、主に、シェア居住者であるアート系学生の発表の場として使われる。

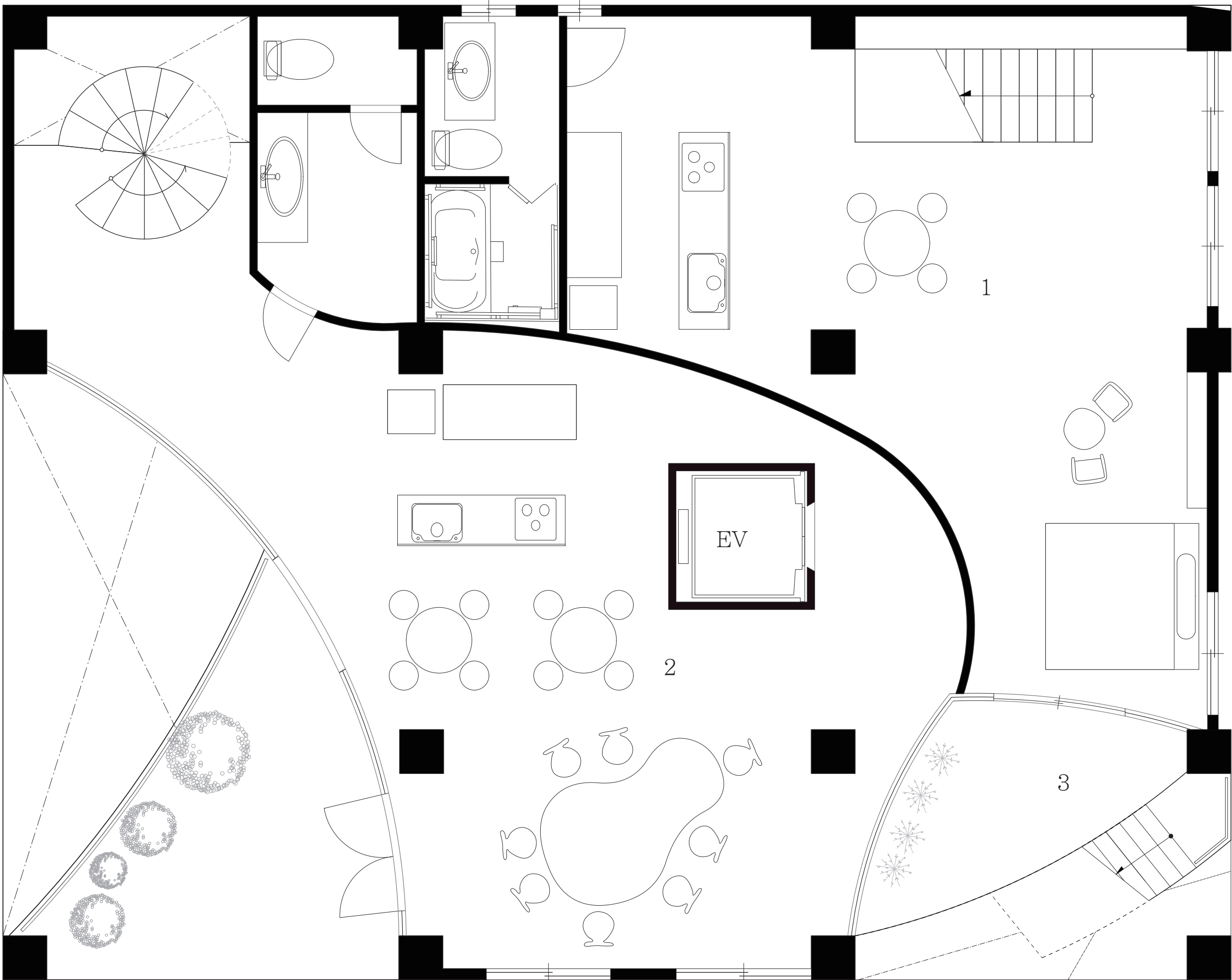
下の図は、既存の状態からの設計プロセスであり、赤い人間は主に祖母がいる場所、黒い点線は、入口から祖母への動線、灰色の三角形は視界の抜け道を示す。透視図は、祖母の視界を表している。



祖母の主空間からは、すべての方向に視界が広がり気持ちが落ち着く

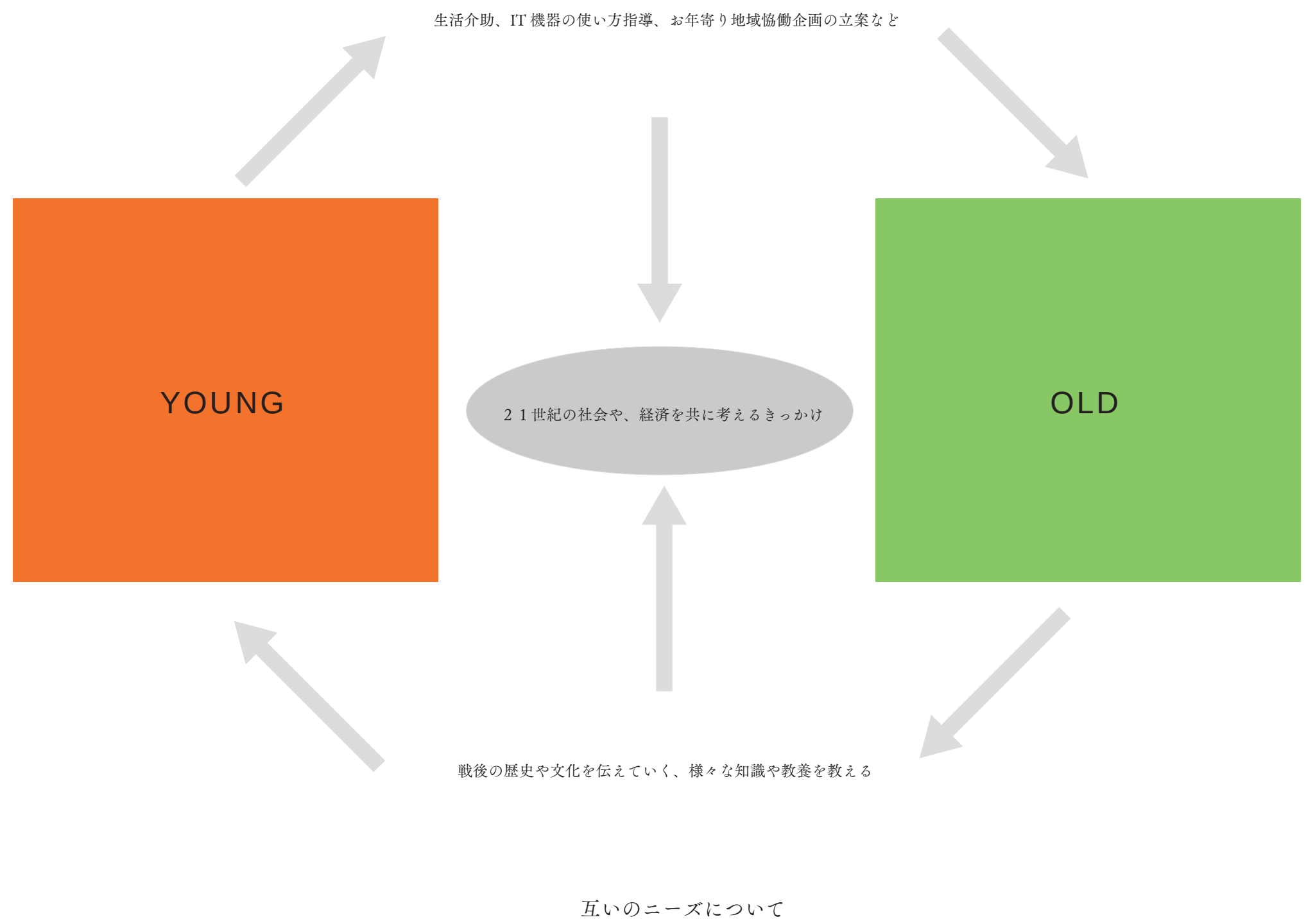
高齢者と若者のシェアスペース

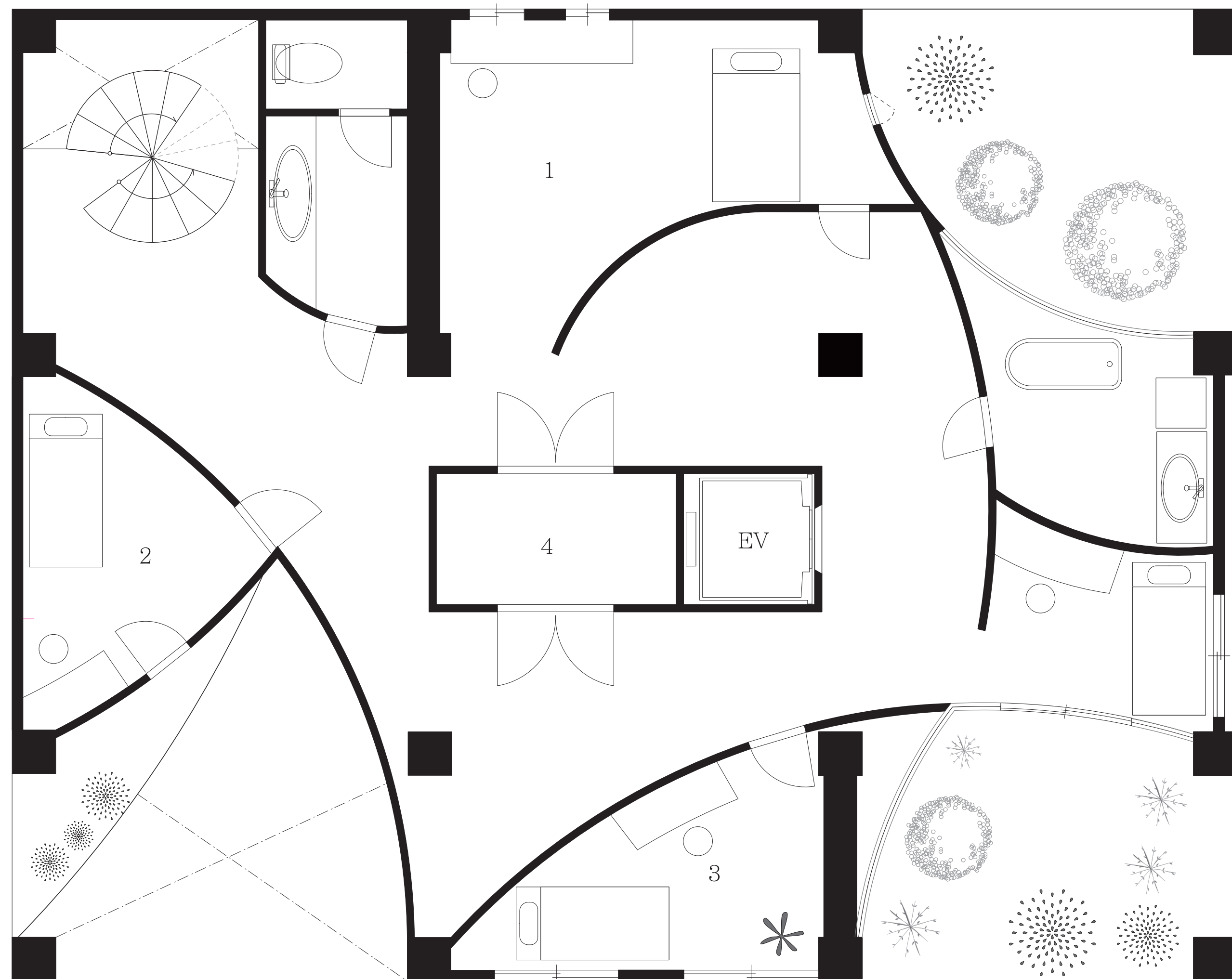
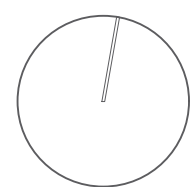
この地域は、都心で最も高齢者が多い。そうしたことや、この建築には様々な人々を受け入れるポテンシャルがあることから、「交流の場」として機能する。特に、居住者である若者と、訪れた祖母の友人らの交流のようなものは、大切であると考えていて、互いに様々なことを学ぶことができます。



- 1 叔父夫婦の空間
- 2 シェアスペース
- 3 庭

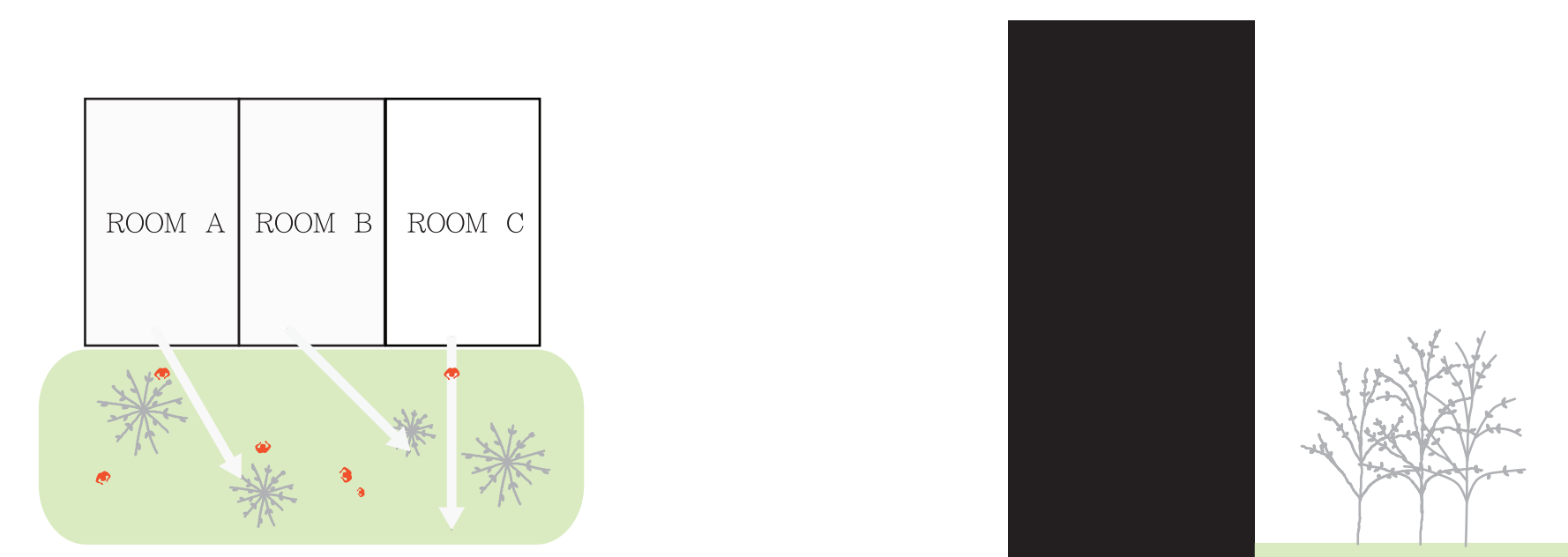
二階 平面図 | S : 1 / 50





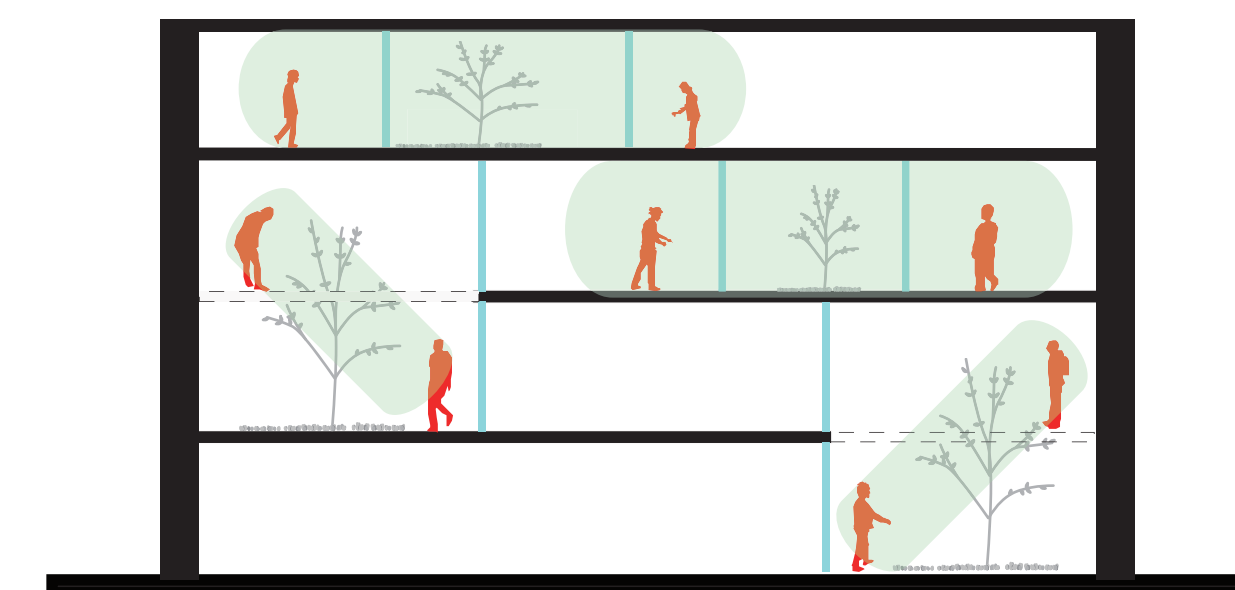
- 1 世帯Aの空間
- 2 世帯Bの空間
- 3 世帯Cの空間
- 4 共用倉庫

■ Diagram



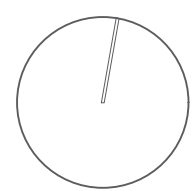
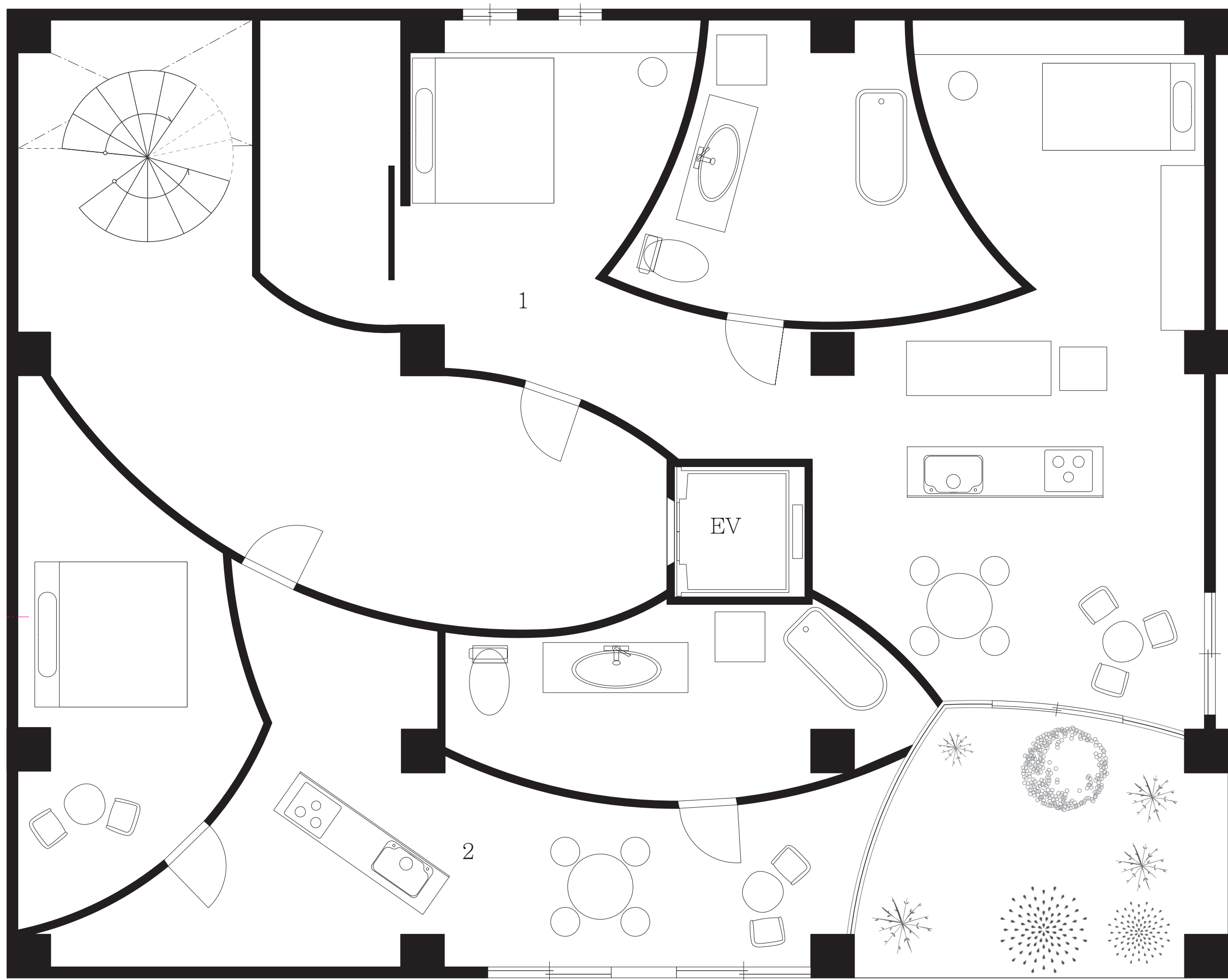
建築＋庭

一般的な集合住宅の庭の構成。平面的な性格が強く、利用者の関係性を築くためのデザインができていない。

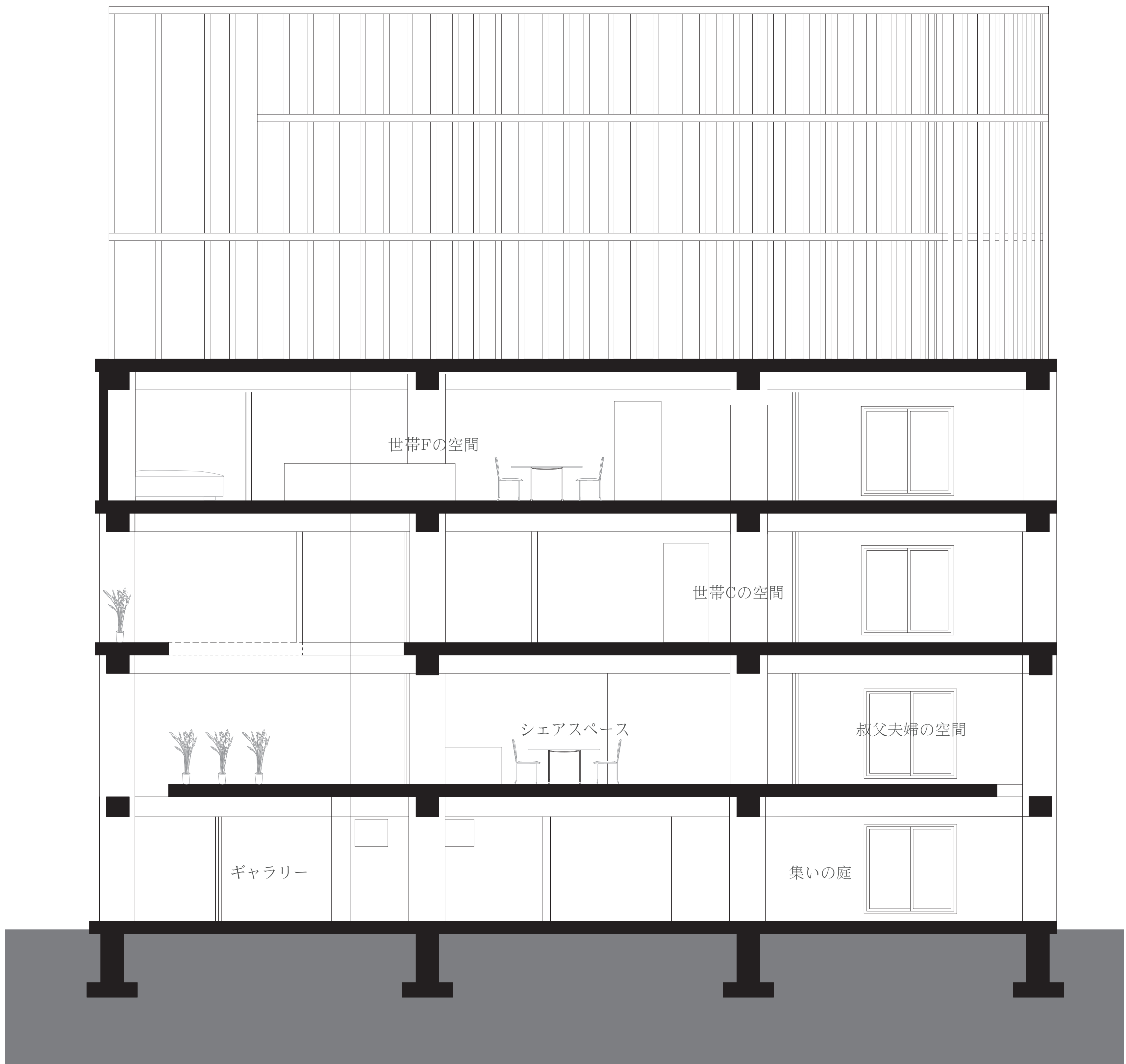


建築 × 庭

庭を立体的に計画し、様々な方向に対して視線が抜け、コミュニケーションの機会を与える



- 1 世帯Eの空間
- 2 世帯Fの空間



断面図 | S: 1 / 50

積層される庭

立体的な庭は、上下階をゆるやかにつながり。関係性を生む。
これをつくることで、表層として、庭のような建築という全体像が生まれる。



共有する庭

この建築では、様々な場所に散りばめられた庭を、隣同士の住処や、上階と下階の住処で共有する。
そうすることにより、他者性を感じ、「互いに庭を大事に扱う」といった気持ちが生まれ、同じ場所に住む意味を再認識させてくれる。



屋上について

立体的な庭によって減った床面積分を、屋上へと積み上げる。この場所は、大きな屋上庭園となっていて、抽象的な部材が細かく連なる。

居住者はもちろん、訪問者を優しくつつみ。鳥や、虫といった生物と人間が共存する、祖母の言葉を空間に表した。



建築は地盤に建てるが、地球に建てる考えると環境指標もかわるだろう。

